

福井県議会議員

福野だいすけ

県政レポート

令和5年秋季版



【発行者】
福井県議会議員 福野大輔

〒918-8153 福井県福井市安保町8-21-1
E-mail: d-fukuno@fukuikengikai.jp

携帯番号: 090-5174-6722
公式サイト: fukuno-daisuke.com



本年4月の統一地方選挙における福井県議会議員選挙におきまして初当選させていただきました福野大輔でございます。5月の初登庁より半年余り経ちますが、この間の福井県議会議員としての取り組みを県政レポートとしてまとめさせていただきました。

県政課題にしっかり取り組み、県民のための政治を行ってまいりますので今後ともよろしくお願いたします。



〈初当庁にて〉

令和5年6月議会 福野だいすけ 一般質問

6月議会の一般質問の様子は、福井県議会の公式YouTubeで視聴できます



◎ 映画「おしよりん」について

【福野の質問】

明治時代に福井市麻生津地区で眼鏡産業の礎を築いた増永五左衛門、幸八兄弟の挑戦と、二人を支え続けた妻を描く映画「おしよりん」が本年10月20日から福井先行、11月3日から全国で公開される。

映画「おしよりん」は、オール福井ロケで撮影された作品であり新幹線福井開業前のこの時期に公開される。映画「おしよりん」を通じて全国の皆様に福井の眼鏡産業を知っていただき興味関心を持ってもらい、北陸新幹線で福井に来ていただく流れを作ることができると良いと考える。

そこで問うが、観光誘客や福井PRのために映画「おしよりん」を活用することについての知事の考えは？

【知事の答弁】

私も、「おしよりん」については原作、それから台本も読ませていただいた。非常に福井らしい家族愛に満ちた作品だなというふうに感じている。ロケも全て福井県内でやっており、台本など見ると、地域の文化、自然、ものづくりの精神とか、福井県のよさがたくさん出ている。俳優も、小泉孝太郎さん、北乃きいさん、森崎ウィンさんだったり、とてもいい方が出ているので、今から秋の封切りにとても期待している。

これをどう観光誘客や福井PRのための発信に使っていくかということだが、制作委員会で、福井県内の17市町全ての魅力的な情報を盛り込んだ動画を、5分バージョンと15分バージョンというのを作っていて、特に5分バージョンは、映画の本編が始まる直前に映画館で放映することが決まっている。15分バージョンはいろんなイベントで、県内外で福井県のよさをPRするときに使おうと考えている。

それ以外にも県内各市町などと協力して、例えばロケ地のマップを作ることや、ロケ地と眼鏡やその他の伝統工芸の産地を結ぶようなツアーを作ること考えている。他にも本年10～12月のプレデスティネーションキャンペーン、11月の全国の宣伝販売促進会議、来年の本番のデスティネーションキャンペーン、これらの機会に、どんどん「おしよりん」を売りこむことで福井県をPRする活動を行っていきたいと考えている。

※デスティネーションキャンペーン…JR各社と指定された自治体、地元の観光事業者等が共同で実施する大型観光キャンペーンのこと。

◎ 防犯カメラについて

【福野の質問】

近年、自治体が公園などの公共施設や児童生徒の通学路等に防犯カメラを設置・運用するケースが増加している。前職福井市議の時にも住民の皆様から多くいただく要望の一つが防犯カメラの設置であった。ただ高い住民ニーズの反面、福井県が各市町に配分する自治会が防犯カメラとその他防犯インフラの初期整備費用に関する予算が充分ではないように考える。

そもそも防犯カメラを補助事業ではなく、県警察が主導して設置をすすめるべきではないかと考えるが県警察の考えは？それが難しいのであれば、県民の高まる防犯ニーズに応えるためや、犯罪を未然に防ぐために防犯に関する市町に応援する予算をさらに拡充するべきと考えるが県の考えは？



【警察本部長の答弁】

警察が防犯カメラを設置、運用するに当たっては、プライバシーの保護等に特に配慮する必要があるとされている。県警察が設置をする街頭防犯カメラについては、犯罪発生の際の蓋然性が高い場所など、限定的に設置している。県警察としては、自治会が主体となる街頭防犯カメラの設置が促進されることが重要と考えており、各警察署に街頭防犯カメラ設置促進アドバイザーを指定して、必要な助言等を行っている。

【防災安全部長の答弁】

県では、令和元年度から、地域の自主防犯力向上を目的とし、自治会が行う防犯カメラの設置に対し助成する市町を支援することとし、昨年度までに13市町の累計115地区に合計323台の設置支援を行ってきた。今回の補正予算案においては、防犯カメラを含む防犯インフラの整備を支援することとしており、あらかじめ県内全市町から自治会のニーズや市町の予算化の状況等を聞き取り、意向を確認した上で予算額を計上した。今後とも、地域の自主防犯力を高めるため、防犯カメラなど市町が行う防犯インフラの整備に対して、どのような支援が有効であるのか、市町の意見を十分に伺いながら検討していく。

◎ 生成AI(ChatGPT)の活用について

【福野の質問】

生成AI(ChatGPT)について全国の自治体を確認してみると、神奈川県横須賀市では4月に全庁で試験導入を始めている。およそ4,000人の職員が文章の作成や議事録の要約のほか、政策立案などに利用し、使い勝手やコストを検証している。場合によっては、人がいちから文章を作る場合に比べて半分以下の時間でできあがるということで、業務の効率化を期待している。

横須賀市のように積極的に活用を検討している自治体がある一方、機密情報の取り扱いや個人情報の保護などの課題が指摘されていることもあってか鳥取県は政策策定や議会答弁の資料作成での使用を禁止するとしている。

そこで問うが福井県においての生成AI(ChatGPT)の活用方針について、知事の考えは？

【知事の答弁】

ChatGPTについては、行政の効率をよくなる、また、県民の皆さんのサービスの向上にも活用できるということで、非常に有益な技術だと感じている。県でもタスクフォースをつくり、いろんな活用方法を調べている。入力した情報が外に漏れないような措置を講じており、個人情報を入力しないというルールを定めて利活用の方法、効果についての検証を行っている。活用法として、広報誌の特集企画、メールの原案を作る、アンケートの取りまとめとデータ分析など試している。こういった事例を積み重ねて、タスクフォースの対象範囲も広げながら、マイナスの部分が起きないように措置は講じた上で、できるだけ利活用の幅が広がられるように実証を続けていきたいと考えている。

視察・活動など～議会の外でも活動中です!!～



令和5年9月議会 福野だいすけ 一般質問

9月議会の一般質問の様子は、福井県議会の公式YouTubeで視聴できます



◎人口減少対策について

【福野の質問】

2023年度9月補正予算案の目玉は何といても人口減少対策としての「日本一の多子世帯応援」と銘打った子育て支援策の制度拡充である。所得制限撤廃による第2子の保育料完全無償化や在宅育児応援手当の支給。多子世帯（扶養する子供2人以上）の県立・私立高校授業料無償化における所得制限の撤廃。多子世帯の県内大学等に進学する際の、授業料減免支援の拡充が挙げられる。

そこで問うが、少子化対策としてのみならず今後の移住・定住促進策の方針としても、今回の日本一の多子世帯応援と銘打った子育て支援策の全国に対しての発信を強化していくべきと考えるが、知事の考えは？



【知事の答弁】

これまでも日本一幸福な子育て県、ふく育県ということで、首都圏など大都市圏を中心にPR等を行ってきた。例えば、昨年度テレビCMを322回流したり、ネット動画を配信し「親超優遇！ふく育県」ということで256万回再生された。結果として、ふく育県という言葉についての認知度が6%から15%ぐらいまで、大都市圏に広がっていき、そこに今回の大胆な子育て支援策の拡充をさらに上乗せして発信していくのは非常に効果的だろうと認識をしている。また、国がやっている東京圏を対象にした移住支援策を福井県においては全国を対象を広げ、これも全国トップクラスの手厚い支援となっている。ちょうど新幹線開通の時期でこれから、全国で福井というのがブームになってくるいいチャンスなので、これを活かしながら、今回の日本一手厚い多子世帯応援県を発信させていただくために、テレビのCMや、福井県の生活環境のよさを表したようなドラマ仕立ての動画、こういったものも発信もさせていく。

【福野の質問】

今回の補正予算案の多子世帯応援の制度拡充は継続的に実施してほしいと思う一方、年間14億円が必要である。日本一の子育て支援策を永続的に続けるために財政的に問題無いことを子育て世代が安心できるよう、知事の強いメッセージをいただきたい。

【知事の答弁】

核燃料税の一部を子育て応援に使う。なおかつこれから新幹線が来て、儲かる企業を誘致するために補助金制度も変えて税収を伸ばしていく。子育て応援と銘打った宝くじを売りだす。さらに、子育て支援のための基金を作る。こういった財源措置を着実にしながら、将来に不安がないということをお民の皆さん、それから福井に移住を考えている皆さんに理解いただけるように、今後とも発信を強化していく。

◎福井外環状道路について

【福野の質問】

福井外環状道路は、福井市街地の西側を南北に結ぶ高規格道路として国の計画に位置付けられており、実現されれば国道8号の渋滞や混雑の緩和、災害時の新たな南北軸としての機能が期待できる。本年7月に行われた福井外環状道路整備促進期成同盟会の設立総会では、地元企業や運送会社の方から意見発表があり、本道路の必要性や、地元の皆様の熱意を再認識した。福井外環状道路の高規格道路として早期の実現を私からも強くお願いするが計画の具体化に向けた取り組みの現状について伺う。

【土木部長の答弁】

福井外環状道路については、交通の分散により福井市街地の渋滞や混雑を緩和し、災害時にも新たな南北軸としての機能を発揮する非常に重要な道路であると認識している。そのため、県としてはこれまで福井市街地の渋滞箇所や事故件数の調査、周辺地域の企業聞き取り調査等を実施し、本道路の必要性や整備の効果の整理等を行ってきた。さらに、福井外環状道路の早期事業化に向けた気運を高めるために、県、福井市、坂井市や地元経済界が一体となり、7月15日に福井外環状道路整備促進期成同盟会を設立し、8月4日には国土交通省及び財務省に要望活動を行った。今後とも早期の計画の具体化に向け、県選出国会議員、県議会、沿線市の皆様と一体となり、国に対し強く働きかける。



◎福井南スマートインターチェンジについて

【福野の質問】

福井外環状道路は北陸自動車道と接続する計画となっているが、接続箇所付近に福井南スマートインターチェンジの早期整備を求める声が地元地域からあがっており、昨年7月には「福井市南部スマートインター整備促進期成同盟会」が設立され、地域の気運が高まっている。

北陸自動車道における福井インターチェンジと鯖江インターチェンジは距離が離れており、福井市南部地域及び西部地域から北陸自動車道へのアクセスは利便性に欠けている。福井市南部地域には、運送会社や自動車会社が多く、産業振興につながるスマートインターチェンジの早期整備が必要であると考えます。福井南スマートインターチェンジが早期に整備されることにより、北陸自動車道へのアクセス時間の短縮に繋がり、地域産業の発展に大きく寄与すると期待され、他にも国道8号渋滞緩和効果が期待できる。

福井南スマートインターチェンジの整備を求める声に対して、どのように対応していくのか、県の考えは？

【土木部長の答弁】

福井南インターチェンジ(仮称)については、整備される場合において、福井外環状道路と北陸自動車道の接続箇所付近となることが想定されるこ

